

執筆者紹介・編集後記・[奥付]

雑誌名	奄美ニューズレター
巻	32
ページ	67-67
URL	http://hdl.handle.net/10232/17875

■ちーびし

○執筆者紹介

- ①生年・出身地、②所属、③専門分野、
④研究業績、⑤奄美と関係した活動
の順番で掲載しております。

■小野寺 浩 (おのでら ひろし)

- ①1946年・北海道札幌市
②鹿児島大学特任教授
③自然環境政策、地域政策
④主な著書「自然ふれあい新時代」(第一法規出版)、「海と人とくらし」(岩崎書店)、「生物多様性キーワード辞典」(中央法規出版)、「世界遺産屋久島」(朝倉書店)、「万物環流」(朝日新聞社)、「論座」に2006年1月から、「阿蘇の草千里」、「釧路湿原の再生」、「屋久杉の島」など毎月連載集、ほか多数
⑤鹿児島大学院人文社会学研究科奄美サテライト教室「総合講義-奄美の世界自然遺産と環境政策」担当

■川上 忠志 (かわかみ ただし)

- ①1943年・沖永良部和泊町
②南日本新聞和泊販売所所長(南日本新聞支社局協力員・現地記者)、沖永良部郷土研究会会員
③沖永良部島研究(島の戦後史、高倉、農業、自然環境等の調査研究)、西郷隆盛の研究
④沖縄タイムス「唐獅子」コラム執筆(2003年1~6月)、「復帰運動史の中の南二島分離問題」鹿児島県地方自治研究所編『奄美戦後史』南方新社
⑤鹿児島県推進「奄美群島自然共生プラン」現地調査員、和泊町民教室郷土史講師、和泊町歴史文化センター運営委員

■本田 碩孝 (ほんだ ひろたか)

- ①1943年・鹿児島県
②徳之島郷土研究会会長・鹿児島大学教育センター非常勤講師(「奄美の民俗文化」担当)

- ③民俗学、教育学
④『学生の奄美・自分史3』郷土文化研究会、2007年
「奄美の民俗文化の事例~名瀬勝での御教示から~」、「民俗文化研究」、第8号、民俗文化研究所、2007年7月
「奄美大島の学校における島唄・島口の伝承覚書」、「鹿児島民俗」、第132号、南島研究会、2007年10月発行(予定)
⑤『徳之島郷土研究会報』(第29号)編集・発行。研究会の開催

■重田 浩史 (しげた ひろふみ)

- ①1969年・鹿児島県
②奄美市役所 介護保険課
③情報システム、行政事務
⑤離島の自治体の諸問題について研究を行っていきたいと考えております。

■楠田 哲久 (くすだ てつひさ)

- ①1947年・鹿児島県
②(株)楠田書店 代表取締役
奄美サテライト教室 人文社会科学研究科科目等履修生
⑤奄美大島地区合併協議会 まちづくり懇話会委員(平成16年6月~平成16年8月)
奄美市行政改革推進委員会委員(平成18年7月~平成19年3月)
奄美市市花等選定委員会委員(平成19年2月~平成19年3月)

■中津浜 康熙(なかつはま やすてる)

- ①1969年・鹿児島県
②奄美サテライト教室 人文社会科学研究科科目等履修生
③林業経営、木材化学

■斉藤 美穂 (さいとう みほ)

- ①1975年・千葉県我孫子市
②大島新聞社沖永良部支局記者
④共著『奄美の島々の楽しみ方』(双葉社刊)
⑤沖永良部郷土研究会会員、与論郷土研究会会員、沖永良部ウミガメネットワーク会員

○編集後記

- 本号では、奄美在住の6名の方にレポート（「しまゆむた」）を執筆いただきました。内容も歴史、文化、行政、環境とバリエーティに富んだものです。
- 表紙の写真は、奄美市の花に選定されたハイビスカスとシャリンバイの花です。楠田さんのレポート資料から転載させていただきました。シャリンバイ（テーチ木）のチップは大島紬の染色に使用されています。
- この度、「奄美サテライト教室」の紹介DVD(第2版)が完成しました。「奄美サテライト教室」の概要や受講生の皆さんへのインタビュー等が収録されています。お問い合わせは、法文学部大学院係まで。
- 『奄美ニューズレター』は鹿児島大学の研究者による調査研究成果や奄美在住の皆さんからの現地レポート等を掲載する季刊誌です。奄美委員会では投稿原稿を募集しています。
(編集担当、山本)

研究責任者 木部暢子
奄美ニューズレター
発行 鹿児島大学

編集責任者 奄美委員会
AMAMI News Letter
発行日 2007年9月30日